

トータルブレイン

16年マンション販売状況検証

トータルブレイン(久光龍彦社長)は、首都圏の2016年のマンション販売状況を検証し、15年と比較して「好調」物件の比率が低下し、「まずまず」の物件が増加するなど、売れ行きのスピードダウンが見られたと発表した。

販売戸数は15年より16%減の2万8765戸。販売平均価格は5596万円(前年比1・4%アップ)、平均坪単価が275・1万円(同2・9%アップ)と上昇しており、売れ行き鈍化の要因となったもよう。

神奈川エリア(横浜・川崎・その他)での販売戸数は88件・5740戸で供給戸数はほぼ横ばい。平均坪単価は244・8万円(15年は240・5万円)。川崎市の物件は交通利便性が高く「好調」件も好調だ。

駅から徒歩10分以上の立地でも、▽クレヴィア相模大野ラテラス(伊藤忠都市

売れ行き、スピードダウン

だが、横浜市で売れ行きがスローダウン。

好調物件は▽ブランド横浜(東急不動産・東神開発)▽リシャール横濱元町(インテリックス)▽井不動産レジデンス「など」は割安な価格設定で好調だ。

▽ファインシティ横浜江ヶ崎ルネ(京阪電鉄不動産・総合地所・長谷工コーポレーション)▽パークホームズラ湘南平塚(三井不動産レジデンス)など